

質 問 者 阿 部 律 子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 実効性のある避難計画、避難訓練を	8月5日に福島県双葉町へ私的に行政視察に行ってきました。双葉町は現在、住民票上の人口は6,000人弱で町には130人程が住んでいます。また、原発から10キロ圏内で、環境的には女川町と似ています。 震災から13年経っても、町に戻りたいと思っている人はわずか600人程度であり、9割が戻らない町になっています。 震災前に避難計画はあったものの「まさか原発事故は起こるはずがない」との思いがどこかにあり、実際に原発事故を受けて、全町避難の難しさ、大変さを知りました」と教えていただきました。 机上のものではなく、実効性のある避難計画、避難訓練のために、次の点について伺います。 (1) これまで何度も行ってきた原子力防災訓練の参加者について、避難用に手配されたバスを利用して登米市方面への広域避難を実際に経験されている参加町民の割合は、どのくらいになりますか。 (2) 要配慮者のうち、地域医療センター入院患者、施設入所者等の広域避難計画について、具体的にどのような状況になっていますか。

質 問 者 阿 部 律 子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 観光地女川のPRのために、分かりやすい看板の設置を	(3) 福島原発事故と同様の過酷事故を起こした場合、風向きによっては、町民の被ばくは避けられません。風向きを考慮した避難計画も必要ではないですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)
	以前より町民の方から指摘されていた看板の設置については、何度も質問してきましたが、いまだに変化が見られないことから、次の点について伺います。
	(1) 震災遺構、マッシュパークの場所を示す看板表示の提案について検討しているとのことでしたが、その後どのように検討されたのですか。
	(2) 設置の見通しはありますか。
	(3) 観光地女川のPRのため、サウナなど海岸通りの小さな建物の看板表示は十分ですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)